



沢登りは今日が初めての藪沼の訓練と遊歩調査をかねて、比較的悪場のなさそうな沢ということで、この沢を選んだ。予想通りほとんど河原歩きであったが、初心者の藪沼にとっては、かなり緊張の連続であったようだ。

(記)

[タイム] 大深谷沢橋(9:30)→二俣(10:40)→右俣終了(13:10)

十三沢左俣

1986年6月7日

I.

今年になって、初めての沢登りである。福島を13時に出発。国道13号線を北上する。

東栗子第一トンネルの入口が十三沢の出合である。トンネルの入口に車を置いて入谷する。

歩き初めて約10分、左俣の出合である。左俣に入ってからすぐに、左岸に炭焼き釜の跡がある。掃りに気がついたのであるが、この釜跡より、国道まで歩道がついていたのである。

沢幅はさほど狭くないが、小滝がポツリポツリと、ナメの沢である。左岸より6mの滝をかけて支沢が合流した先に、熊ならぬ人間が出現。山菜採りに来た人である。

2mの二段滝を過ぎると、2m、5mと続く連瀑である。ホールドがなく、さらにはヌルがついていて、やりにくい。私が中央を強引に突破して、二人を確保し、無事三人登ることができた。掃りは当然懸垂である。同行の小野さんは、初体験。ぶっつけ本番とはこのこと。

この先3m程度のものが、あきることなく出現。沢のほぼ中間あたりに6mの滝。シャワーで中央を越えられそうであるが、安全を期して左岸に取り付く。

沢に入って約一時間。沢にはだんだんヤブがかぶさり、傾斜もきつくなってきた。源頭と思われる。ここで終了として、掃路につく。

地図から判断すると、どうってことない沢と思われたが、今年初めての沢としては、けっこう楽しめた沢登りであった。

(記)

【タイム】 栗子トンネル入口(13:45)→左俣出合(13:55)→終了(14:50)

7. 八溝山周辺の沢

宮川・南沢

1986年6月1日

Li

山本不動尊に参詣する人達にジロジロみられるのを無視して、早足で通り過ぎる。宮川左岸にはずっと踏跡が続いている。北沢出合の少し先まで進んだら、左下に4mの滝が見えてきた。我慢できずに沢に降りる。

F₁は右岸と左岸からそれぞれのルートで直登して上にでる。沢は花崗岩質で、ナメが随所に出てくる。ずっと深い樹林帯の中を進むので、暗い沢筋が続く。これで滝が出てきてくれたら申し分ないのだが、そこまではうまくゆかない。平凡な沢筋となってしまった。

沢が徐々に右にカーブするようになる頃、左右から合流する支沢はいずれも10m前後の滝をかけて合流するようになる。本流の方に滝はかからないが、先が少し楽しみになってきた。

やがてF₂ 5mに着く。右岸を捲いて越す。このあたりまでくると、沢ぞいに続いていた踏跡はかなり荒れてきていて、橋

